

2024年（令和六年） 6月7日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

## ■ 概況

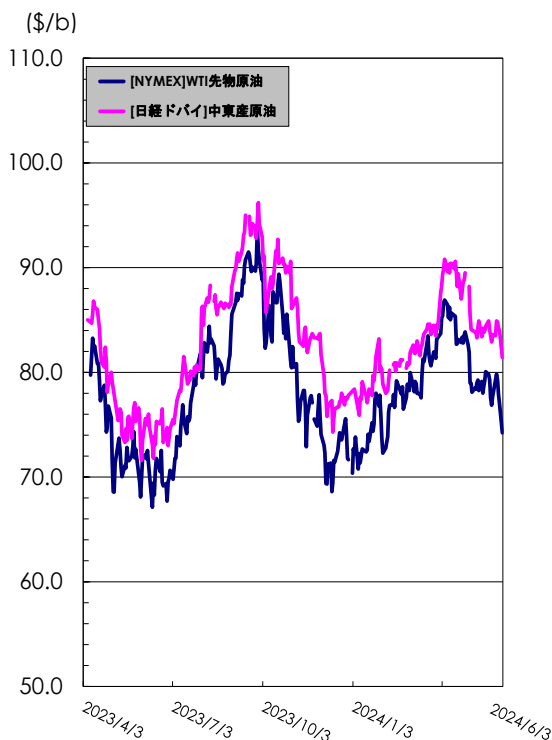
当週（5月30日～6月5日）の国際石油市場は、続落の77.91ドルで始まり、米国需要の減速懸念等を背景に値下がり傾向を示した。2日開催のOPECプラス閣僚会議では、全体の協調減産は2025年末まで、主要8カ国による追加自主減産は9月末まで延長されたものの、同時に10月以降の自主減産緩和も決まったことから、下落傾向に拍車がかかり、5営業日続落、4日は73.25ドルまで低下した。5日は、反発の74.07ドルで終わった。

また、中東産バイ原油/東京市場（7月渡し）も、前週（5月23日～29日）82.90～84.90ドルの範囲で推移したが、当週は、5月30日84.20ドル、31日84.00ドル、6月3日81.40ドル、4日78.50ドル、5日78.30ドルと推移した。

対ドル為替レート（TTM）は前週（5月23日～29日）156.87～157.40円の範囲で推移したが、当週は、5月30日157.62円、31日156.74円、6月3日157.18円、4日156.47円、5日155.30円となった。

そのような中で、6月3日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.2円安、軽油も同0.2円安、灯油は1円高（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は174.8円となった。6月6日～12日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は26.2円（補助金がない場合の次週予想価格201.0円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は16.0円）となった。

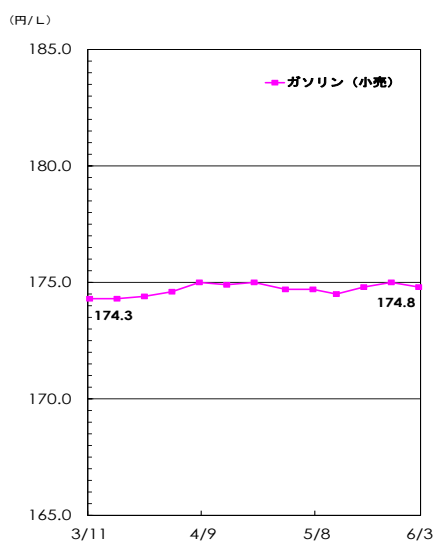
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/26～6/1	2,428 ▼-24	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	67.5 ▼-0.7	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	6/1	10,216 ▲382	▼ -
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	6/3	81.40 ▼-2.10	▲ 5.8
	WTI先物原油 (NYMEX) (\$/bbl)	6/3	74.22 ▼-5.61	▲ 2.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月上旬	88.72 ▲2.00	▲ 2.27
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	86,375 ▲2,992	▲ 12,765
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	154.76 ▼-1.89	▼ -19.39
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/3	158.18 ▼-0.31	▼ -17.00



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/26 ~ 6/1	800 ▲ 10	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	688 ▲ 8	▼ -
	輸出	"	62 ▲ 37	▲ -
	在庫	6/1	1,882 ▲ 50	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 5/28 ~ 6/3	83.0 ➡ 0.0	▲ 10.0
		(TOCOM/中部) 6/3	80.7 ▲ 0.7	▲ 6.2
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 6/3	174.8 ▼ -0.2	▲ 6.1

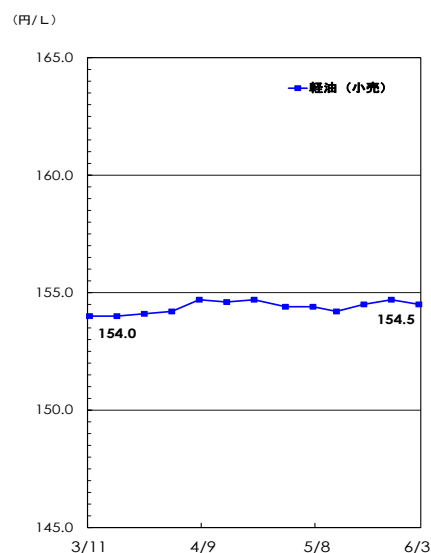
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

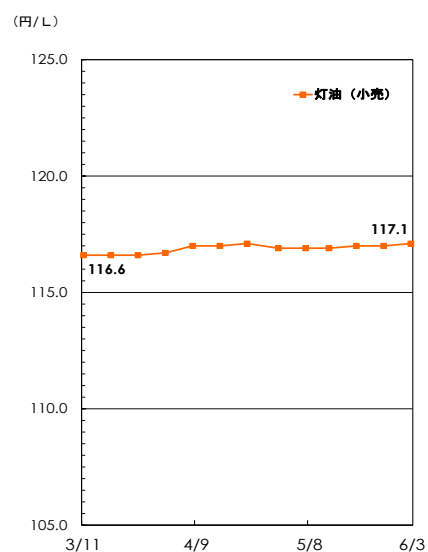
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/26 ~ 6/1	706 ▲ 70	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	556 ▲ 46	▲ -
	輸出	"	20 ▼ -105	▼ -
	在庫	6/1	1,614 ▲ 129	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 5/28 ~ 6/3	83.7 ▲ 0.2	▲ 5.2
		(TOCOM/中部) 6/3	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 6/3	154.5 ▼ -0.2	▲ 5.9

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/26 ~ 6/1	115 ▼ -42	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	39 ▲ 68	▼ -
	輸出	"	26 ▲ 26	▲ -
	在庫	6/1	1,636 ▲ 50	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 5/28 ~ 6/3	81.5 ➡ 0.0	▲ 6.4
		(TOCOM/中部) 6/3	82.0 ➡ 0.0	▲ 6.7
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 6/3	117.1 ▲ 0.1	▲ 5.9



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(5/23~5/29)のNYMEX・WTI先物市場は76.87~79.83ドルの範囲で推移した。

当週、30日は、この日発表の米国石油在庫が、原油は大きく減少したものの、ガソリン在庫が予想外の増加で、6月からのドライブシーズンを前に、製品需給の緩みが意識され、続落した。米国の利下げ先送りへの警戒感もあった。7月物終値は、前日比1.32ドル安の77.91ドル。

週末31日は、5月のシカゴ景況指数が悪化、米国景気の減速が石油需要への悪影響懸念が高まるとともに、6月2日にWEB開催予定のOPECプラス閣僚会議の結果様子見気配により、3日続落した。3月の米国産油量が高水準であったとの統計発表も値下がり要因。7月物終値は、同0.92ドル安の76.99ドル。

週明け3日は、2日に急遽リアドで対面開催されたOPECプラス閣僚会議で、全体による協調減産366万b/dは2025年末まで、有志5カ国による追加自主減産220万バレルb/dは9月末まで延長されたものの、10月以降は段階的縮小す

る方向が合意されたことから、需給緩和感が高まり、4日続落した。7月物終値は同2.77ドル安の74.22ドルと約4か月ぶりの安値を記録した

4日は、ひき続き、先行き需給緩和感がある中、対ユーロでドル高が進行、原油先物の割高感も重なり、続落、約4か月ぶりの安値を記録した。5日発表予定の米国石在庫報告の取り崩し観測が下値を支えた。7月物終値は、同0.97ドル安の73.25ドル。

5日は、5月の米国非農業部門雇用者統計が増加したものの鈍化、雇用過熱感が後退、早期利下げ期待から、需要増加が高まり、6営業日ぶりに値上がりした。安値拾いの買いもあった模様。ただ、この日発表の先週末の米国石油在庫が、原油・ガソリンとも積み増しであったことが上値を抑えた。7月物終値は、同0.82ドル高の74.07ドル。

2 海外/米国石油市場

5月30日発表の24日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油が前週比420万バレル減と市場予想(同200万バレル減)を上回る取り崩しであったが、ガソリンは同200万バレル増と市場予想(同50万バレル減)に反する内容で、6月からのドライブシーズン入りを前に今後の需要に不安を抱かせるものだった。また、5日発表の5月31日時点の同統計は、原油が前週比120万バレル増と市場予想(同230万バレル減)に反し、ガソリンも同210万バレル増と市場予想(同200万バレル増)をわずかに上回る増加で、足元の需給の緩みを示した。

EIAによると、6月3日時点で、ガソリンの小売価格は、前

週比6.1セント安の1ガロン3.516ドル(146.7円/ℓ)と6週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比3.2セント安の1ガロン3.726ドル(155.5円/ℓ)と8週連続の値下がり。

ペーカーヒューズ社によると、5月31日時点で、前週比1基減の496基と3週ぶりに減少した。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年5月26日~6月1日に休止したトッパ能力は63.2万バレル/日で、前週に対して3.0万バレル/日減少した(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は242.8万klと、前週に比べ2.4万kl減少。前年に対しては27.0万klの増加。トッパ稼働率は67.5%と前週に対して0.7ポイントの減少、前年に対しては9.3ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/1.2%増、ジェット/2.5%増、灯油/26.7%減、軽油/11.0%増、A重油/1.7%増、C重油/31.9%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比横ばい)。軽油の輸出は2.0万kl(前週比10.5万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリン、ジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は68.8万kl(対前週1.2%増)と3週振りに増加した。ジェット9.0万kl(対前週144.9%増)、灯油3.9万kl(対前週235.3%減)、軽油55.6万kl(対前週9.2%増)、A重油14.3万kl(対前週15.1%減)、C重油11.8万kl(対前週11.7%減)。

(単位:千L)

	今週 (5/26 ~ 6/1)	前週 (5/19 ~ 5/25)	前週比
ガソリン	688	680	▲ 8 (1%)
ジェット燃料	90	37	▲ 53 (143%)
灯油	39	-29	▲ 68 (-234%)
軽油	556	510	▲ 46 (9%)
A重油	143	168	▼ -25 (-15%)
C重油	118	133	▼ -15 (-11%)
合計	1,634	1,499	▲ 135 (9%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

## 4 国内/製品在庫量

6月1日時点の在庫は全ての油種で積み増しとなった。前年に対してはC重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは188.2万kl、前週差5.0万kl増。前年に対しては22.8万kl多い。

灯油は163.6万kl、前週差5.0万kl増。前年に対しては23.7万kl多い。

軽油は161.4万kl、前週差12.9万kl増。前年に対しては18.3万kl多い。

A重油は76.8万kl、前週差2.6万kl増。前年に対しては7.6万kl多い。

C重油は176.0万kl、前週差2.7万kl増。前年に対しては14.1万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (6/1)	前週 (5/25)	前週比	
ガソリン	1,882	1,832	▲ 50	(3%)
ジェット燃料	823	807	▲ 16	(2%)
灯油	1,636	1,586	▲ 50	(3%)
軽油	1,614	1,485	▲ 129	(9%)
A重油	768	742	▲ 26	(4%)
C重油	1,760	1,733	▲ 27	(2%)
合計	8,483	8,185	▲ 298	(3.6%)

## 5 国内/元売会社製品卸価格

5月28日～6月3日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートは円安で、円建て輸入原油価格は値上がりした。元売会社の卸価格建値は値上げしたものと見られるが、補助金の増額により、6/6～6/12の実質卸価格はほぼ横ばいとなった模様。

## 6 国内/製品小売価格

6月3日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円値下がりの174.8円、軽油も同0.2円値下がりの154.5円、灯油は18%ベースで同1円高の2,107円(1%ベースでは0.1円高の117.1円)。ガソリンは3週ぶりの値下がり、軽油も3週ぶりの値下がり、灯油は2週ぶりの値上がりであった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが12県、横ばいは14都県、値下がりが21道府県だった。全国最安値は岩手県の168.3円、その次は愛知県の168.8円であった。他方、最高値は長野県の184.5円。最も値上がりしたのは茨城県(同0.8円高)、最も値下がりは和歌山県(同1.9円安)だった。

次回調査時(6/10)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (6/3)	前週 (5/27)	前週比	直近高値
レギュラー	174.8	175.0	▼ -0.2	23/9/4 186.5
灯油	117.1	117.0	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	154.5	154.7	▼ -0.2	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。  
次回 (2024第10号) の公表は、6/14 (金) 14:00 です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

#### ④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。